

言葉にこだわって

事後研修の時に、三谷先生が「言葉にこだわっている。」とおっしゃっていました。

私も、いつも意識しています。「なんて言ったら子ども達がワクワクするのかな？」

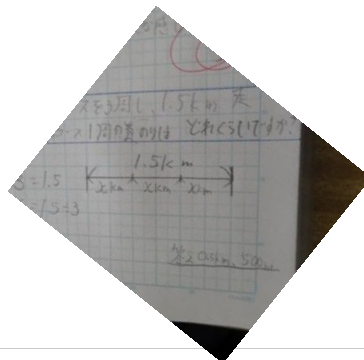
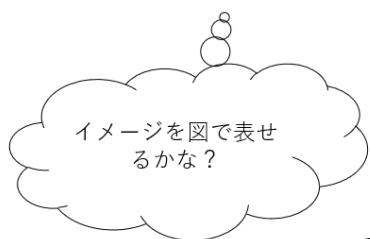
「どんな言葉をかけようかな？」そして、その言葉を「どのタイミングで伝えようかな？」と。言葉は生きています。だからこそ、自分自身の状態も良くないと、うまく伝わりません。大切にしていきたいですね。

昨年度、算数の時間に意識していたことは、問題文の提示の仕方でした。どのような言葉にすると、いろいろな考えが出るかな。と、こだわって授業をしていました。

4月27日

問題1

1周 x km のコースを3周し、1.5km 走りました。
このコースの1週の道のりはどれくらいですか？



教科書には、「このコース1週の道のりは何kmですか？」とありました。それを「このコース1週の道のりはどれくらいですか？」と少し変えて提示しました。すると、答えに「0.5 km」「500m」、さすがに「cm」で求めた児童はいませんでした。と言っていました。このように、少し表現を変えるだけで、考えの幅が変わります。それと同時に単位変換の復習にもなりました。

今年度も、教科書の文章を少し変えて、子ども達に提示しています。

35円 9.4

① さんが ~~お~~金をも
っています。1まいが
ようしをかいました。
のこりはいく円ですか。

② 3 5
- 1 2
 2 3

③ 2 3 円

④ 3 5 - 12 = 23 ~~いけんをあげる~~

3 5
- 1 2
 2 3

1 2
- 3 5
 2 3

⑤ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑥ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑦ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑧ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑨ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑩ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑪ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑫ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑬ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑭ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑮ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑯ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑰ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑱ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑲ 3 1 5 2 1 3 2 5

⑳ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉑ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉒ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉓ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉔ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉕ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉖ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉗ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉘ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉙ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉚ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉛ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉜ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉝ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉞ 3 1 5 2 1 3 2 5

㉟ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊱ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊲ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊳ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊴ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊵ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊶ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊷ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊸ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊹ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊺ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊻ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊼ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊽ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊾ 3 1 5 2 1 3 2 5

㊿ 3 1 5 2 1 3 2 5

いさんではでさな。

いさんのいけんを
たどった

お！
excellent!!

このようにすることで、必要な情報を聞き出そうとします。これは、目的をもって行っています。どんな子ども達に育ててほしいのか？それをまずイメージします。2Aでいえば、「困ったときに自分から困ったといえる子どもになってほしい。」と考えています。それを授業の中で実現できるように、問題を出す場面で、困り感をもてるような出し方をあえてしています。それで、子ども達が、「先生。いくら持っているの？」という発言を引き出せたら、シメシメと思い、情報を開示していきます。

つまり、単にこれをすればいいということではなく、目の前の子ども達の成長した姿を想像して、今を過ごしていくようにしています。しかし、私もまだまだ準備不足、余裕不足で「あ〜。」ということがたくさんあります。子ども達が少しでも学習を楽しくできるように、頑張っていきたい。